

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

人権教育推進懇談会（東秋里町内会・松並町二丁目北町内会の合同）

テーマ「支え合う家族のきずな」

日時：平成29年11月12日（日）9：40～10：40（1時間）

場所：地区集会場「きずな館」

参加者：町内会町民25名



【内容】

- ◆ 東部地区在宅医療連携推進協議会が作成したDVD「うちげえ（家）に帰りたい」を活用。前半はパワーポイントで説明。後半のみDVDを視聴し話し合いを実施。全体で1時間。 ◆

（概要1）

二人暮らし高齢者の夫婦、夫が脳梗塞になり退院後に自宅療養する経過の中で、もしもの時の話をする場面を想定。5人程度のグループで「もしもの時の受たい医療や介護を受けるためにどうしたら良いか」、「自分に代わって思いを伝えてくれる人について」を話し合いました。

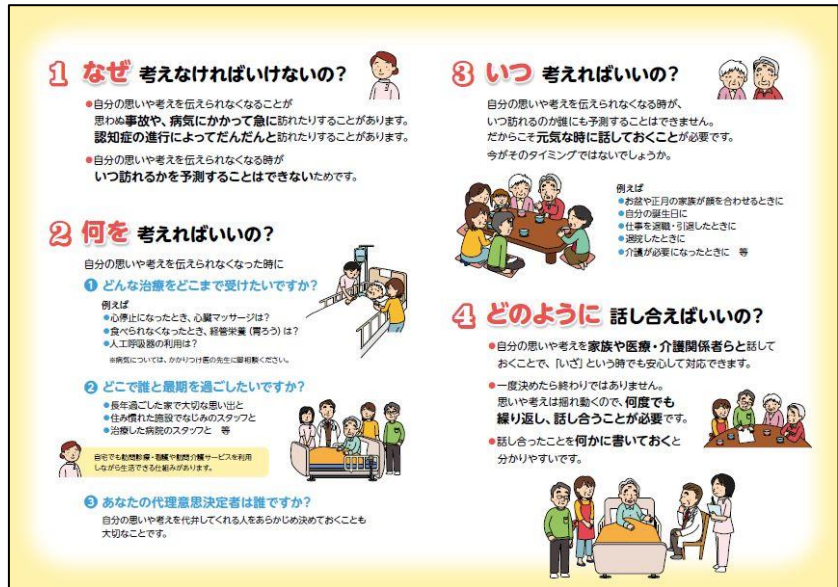
（参加者の意見）

- ・そろそろそんなことを考えないといけない
- ・ビデオと同じ夫婦二人暮らし、不安なので話し合っはいる
- ・遺言を残して準備万端
- ・一人暮らしなので今は大丈夫だけど・・・
- ・親類に意思疎通ができない胃ろうの人がいるが、自分はしてほしくない
- ・祖母が寝たきり、今後について家族と話を避けてきたけど話しをしないとけない



(概要2)

自分たちの町内会の高齢化率などの説明、最後に「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」のパンフレットを皆さんと1項目ずつ確認しました。



(講師の感想)

今回お話しをさせていただき、参加者の皆さんの過去や現在の事情により、今後の事についての思いが異なることを知りました。そして自分のため、家族のためにも考えておかないといけないことを改めて話し合われていたように感じました。

また、他の地域でも感じましたが、結構考えておられる住民が多くいるという印象も受けました。

(講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室・廣山恵看護師)